

## かにくいあざらしの内臓の形態観察

西田 司一\*・雨宮 淳三\*\*

### MORPHOLOGICAL NOTES OF THE INTERNAL ORGANS OF CRAB-EATING SEAL

Shiichi NISHIDA\* and Junzo AMEMIYA\*\*

#### **Abstract**

Some entrails and an embryo of a crab-eating seal captured in Antarctica (69°01' S, 30°41' E) were examined from the standpoint of morphology. This paper describes the characteristics observed with the naked eye.

The dissection was performed after the

material was melted indoors, as it had been frozen, and the features of entrails, weight, colour, and so on were chiefly examined. The dissected parts were kept in a 10 per-cent formalin liquid and were examined again later.

南極地域（南緯 69°01′，東経 30°41′）で昭和 36 年 3 月 2 日捕獲したかにくいあざらし (Crab-eating Seal) の臓器数種及びあざらし胎児 1 例（第 4 次越冬隊景山孝正隊員採取）の形態学的特徴を検討してみたので，それらについての肉眼的観察を列記してみることにした。

あざらしの解剖については多数の報告，特にウェッデルあざらしについては詳細な報告がある。

さらに組織学的に精査するつもりであるが，ここでは例数が少ないが一応肉眼的な観察結果のみを報告する。

#### 1. 入手観察した臓器の種類，数

胃 (1)，腸管 (1)，肝臓 (1)，腎臓 (左右各 1)，精巣と精巣上体 (1)，陰茎 (1)，脾臓 (1)，肺臓 (左右各 1)，胎児 (♀) (1)。

これらは凍結状態であったので室温において融解後，肉眼解剖学的に外部形態，重量，色調等について検討したのち，10% フォルマリンに保存し，のち再び検討した。

#### 2. 観察所見

##### 1) 胃 (Fig. 1 参照)

塊状の胃底部に，ほぼ円錐状の噴門部，および幽門部が，その長軸の交叉角約 90 度で，胃

\* 東京大学農学部. Faculty of Agriculture, The University of Tokyo.

\*\* 鹿児島大学農学部，第 5 次南極地域観測隊員. Faculty of Agriculture, Kagoshima University.  
Member of the Japanese Antarctic Research Expedition, 1960-61.

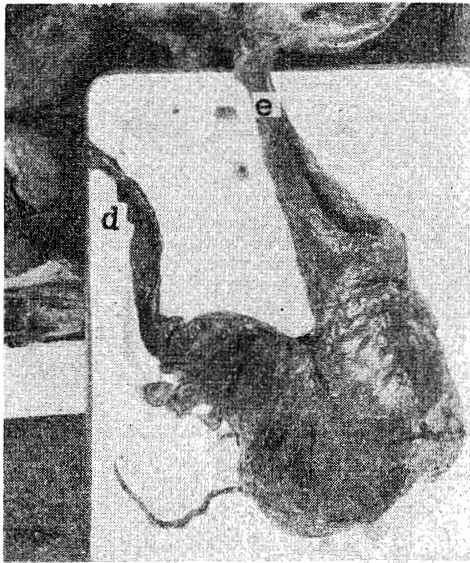


Fig. 1. Stomach. Scale...about 1/8  
d: Duodenum e: Oesophagus

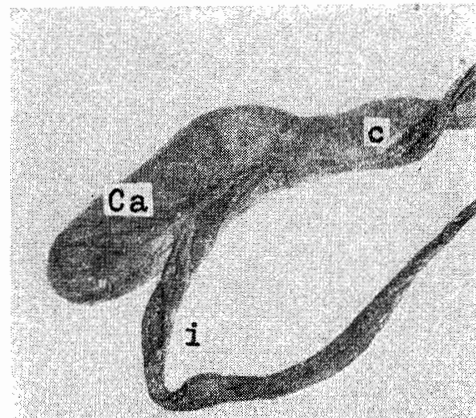


Fig. 2. Caecum. Scale...about 1/6  
c: Colon Ca: Caecum i: Ileum

小彎の両側に突出したような外形を示す．胃底部と，それぞれ噴門および幽門部との移行部には，小彎においてくびれがあり浅い溝を形成し，ために胃底部の小彎に属すべき部分は著しくせばまっていた．胃内容はいびと碎石で充満していた．前記 3 部の区分は肉眼的に行なったもので組織学的検索によるものではない．色調は暗赤褐色を呈する．

## 2) 腸管

小腸は長さ約 24m，全長にわたり，ほぼ同じ太さの管から成り，十二指腸，空，回腸の区分は明らかでなく，そのまま盲腸の基部に入る．

盲腸 (Fig. 2 参照) は長さ約 18cm 径約 7cm の棍棒状で，その長軸は，これにつづく結腸，直腸と一致する．結腸，直腸の区分は明らかでなく，両者合わせて約 8cm，外径約 5cm のほぼ同じ太さの殆んど真直な管から成る．色調は暗赤褐色．

## 3) 肝臓 (Figs. 3, 4 参照)

葉間切痕によって左右の各葉はそれぞれ 2 葉に分かれたれ，これに方形葉，尾状葉を加え計 6 葉から成る．方形葉は比較的小さく，これと内側右葉との間に胆嚢を付着する．尾状葉は比較的大きい．

左葉は右葉より大きく，切痕は右葉では深く，明らかに内及び外側の 2 葉に分かれているが，左葉では横隔膜面において背側にあって浅く，完全に内，外，の 2 葉に分かれていない．

重量約 3.2kg，色調は暗赤褐色．

## 4) 腎臓 (Figs. 5, 6, 7 参照)

左：長さ約 17cm，厚さ，幅約 8.5cm 及び 4cm の舌状，重量 480g

右：長さ約 12cm，厚さ，幅約 8cm のまがたま状，重量 550g

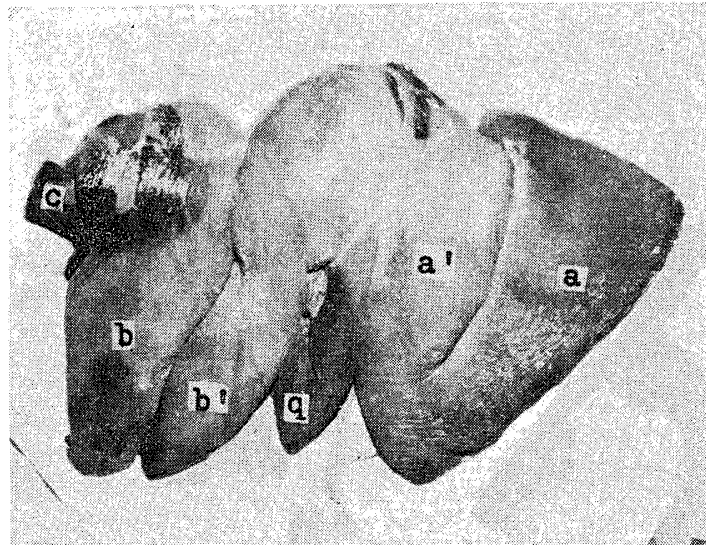


Fig. 3. Liver. Facies diaphragmatica. Scale....about 1/8

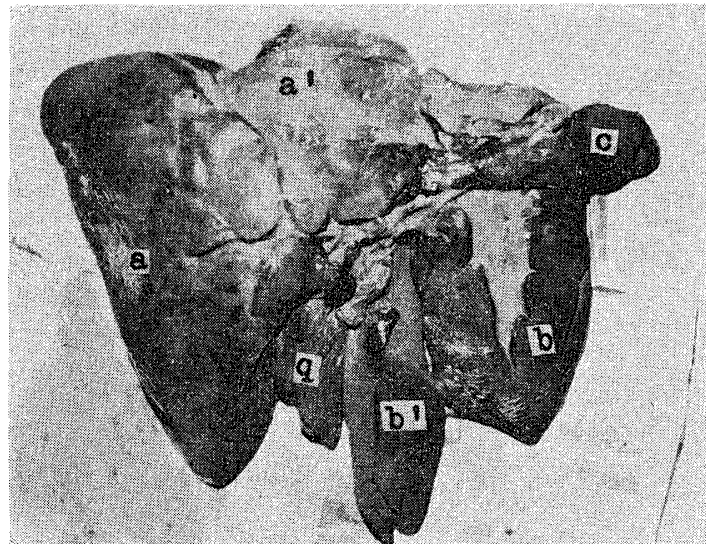


Fig. 4. Liver. Facies visceralis. Scale....about 1/7.5

- a: Lobus sinister lateralis    a': Lobus sinister medialis    b: Lobus dexter lateralis  
 b': Lobus dexter medialis    q: Lobus quadratus    c: Processus caudatus  
 p: Processus papillaris

腎臓表面はかなり厚い被膜で覆われているが、ここには脂肪を殆んど認めない。この被膜の下に不整多角形に表面を分けて、浅い溝が網目状に、互に交通しており（この溝は各腎葉片または腎葉の境界に相当する）、この溝の部分に血管が走る。

明らかな hilus のくぼみを形成せず、ventral side 中央のやや正中線側表面に、腎動・静脈の本幹が出入し、またここから尿管が出る。断面をみると各腎葉（片）に相当する部分が、石垣状に配列し、それぞれの中心に腎乳頭と腎杯をそなえる。しかしこれら各々の腎葉の境界は結合組織によって区画されず、肉眼的には、腎乳頭もしくは腎杯の存在によって区別できるにすぎない。断面にみられる腎葉（片）数は約 40 個を数えた（Fig. 7. 鉤で乳頭を反転し腎

Figs. 5, 6 and 7. Kidney (left).

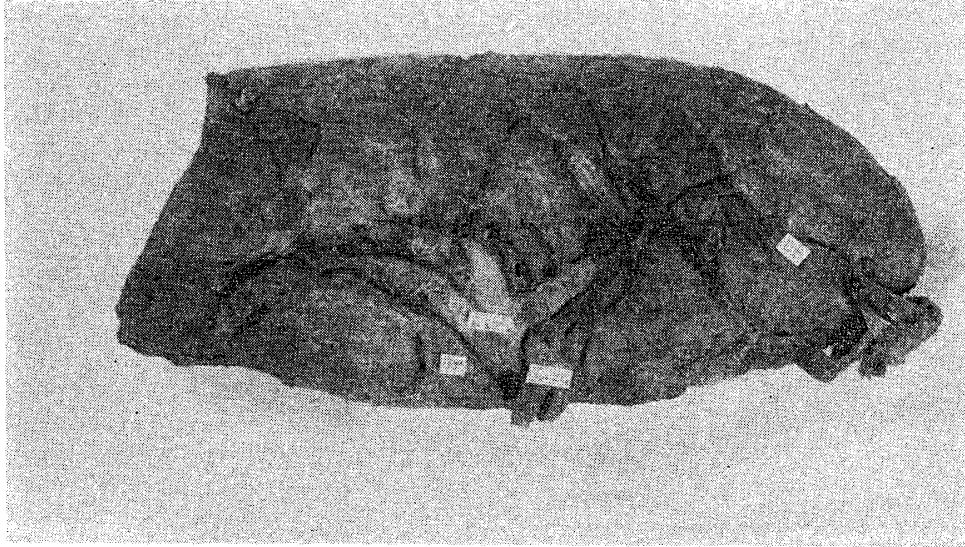


Fig. 5. External view. Scale....about 1/2

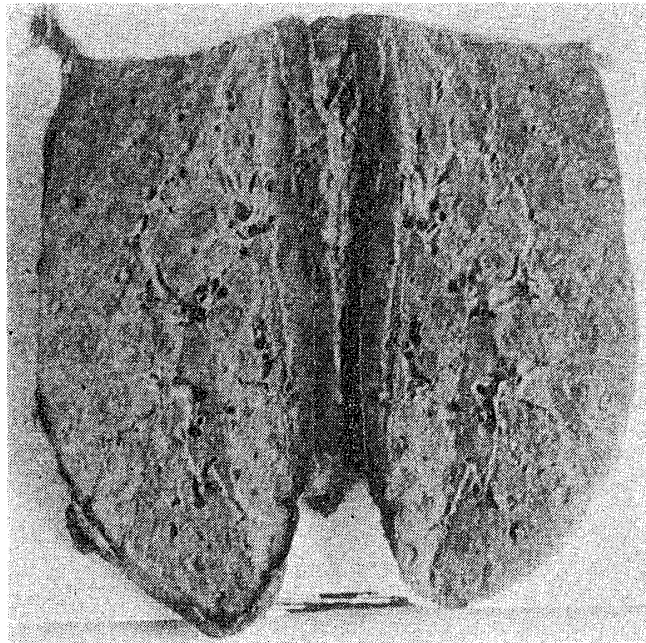


Fig. 6. Cut face. Scale....about 1/2.5



Fig. 7. Cut face. Scale....about 1/1

A.r.: Left renal artery    V.r.: Left renal vein    U.r.: Ureter

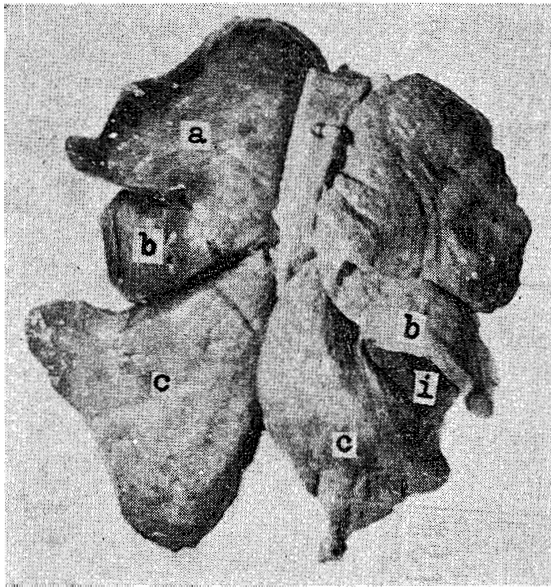


Fig. 8. Lung (dorsal view).  
Scale....about 1/6.5

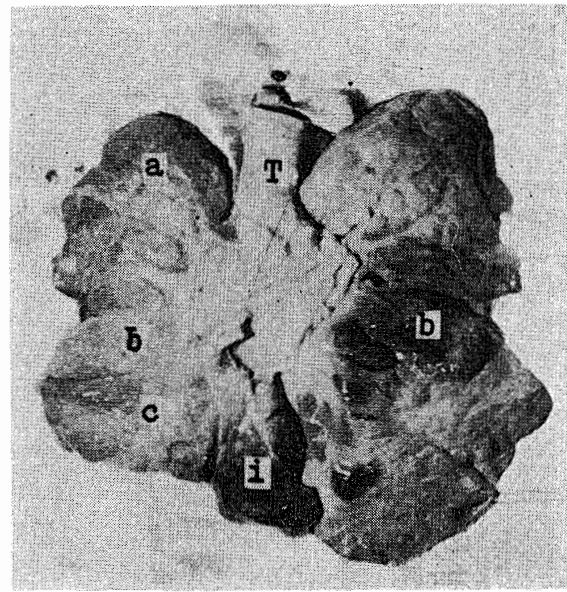


Fig. 9. Lung (ventral view).  
Scale....1/10

a: Lobus apicalis    b: Lobus cardiacus    c: Lobus diaphragmaticus  
i: Lobus intermedius    e: Oesophagus    T: Trachea

杯を示す)。

色調はやや青味をおびた暗赤褐色。

#### 5) 精巣

淡赤褐色，長さ約 8.5cm，幅，厚さ 4cm の卵円形で重量約 70g.

#### 6) 陰茎

長さ約 30cm，径 2.8cm の円筒状．長さ約 15cm の竜骨状の Os penis を含む．

#### 7) 脾臓

暗赤褐色でやや青味をおびる．長さ約 30cm，幅 13cm，厚さ 3cm の扁平舌状．重量約 500g.

#### 8) 肺臓 (Figs. 8, 9 参照)

右は中間葉を含め 4 葉，左は 3 葉にそれぞれ葉間切痕により区別される．重量約 2.5kg，色調淡赤紅色．

#### 9) 胎児

性別雌，Crown-rump 長 94cm.

胎児の各臓器の肉眼的な外部形態は，色調，形態共に成体の各臓器とほぼ同一の形態を示し，著しい相違は認められなかった．

卵巣は円形大型（径約 3cm）で，子宮は双角子宮であった．

(1961 年 9 月 1 日受理)